

教科名		美術	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点	発行者名	開隆堂出版	光村図書出版
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「使える知識 広がる美術」において、幅広い知識と教養を身に付けることができるように工夫している。</li> <li>・題材「墨から生まれる」において紹介されている技法と、作品の表現方法が説明されているなど、知識を基に表現方法を学ぶことのできる工夫がされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別冊の「資料」において、技法、材料、色など、美術の学びに不可欠な資料がまとめられている。</li> <li>・第1学年の教科書「美術の扉を開こう」小学校の図画工作科との接続を意識したオリエンテーションのページが充実している。</li> </ul>
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表紙のテキストチャーに工夫が凝らされている。</li> <li>・各題材の「学習の目標」が示され、どの学習活動が「思考力・判断力・表現力等」と関連するのか、記号を用いて示している。また、「発想の方法」や「鑑賞」の学習の進め方のヒントやポイントをキャラクターを用いて示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つの題材の中で「表現」と「鑑賞」の相互の関連が意識されており、思考的な活動と表現活動との関わりについてバランスが取れた提示の仕方になっている。</li> <li>・各題材の学びの流れが明確に示され、生徒が主体的に学習できるようになっている。</li> </ul>
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本及び諸外国の美術や美術文化を多種多様に取り上げるとともに、より身近な視点から美術や美術文化について学ぶことができるように工夫されている。</li> <li>・折り込みページの活用や大型図版の掲載によって、鑑賞学習が充実できるように配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アニメーションや映像表現など、メディアに関する表現が分かりやすくなっている。</li> <li>・日本画に関するページに和紙が使われているとともに伝統的な字体を使用するなど、日本文化に対しての工夫が見られる。</li> </ul>
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2・3学年の教科書の巻末に「持続可能な未来へ」のページを設け、SDGsに関わりのある取組や作品を紹介している。また、廃材を利用した作品など、SDGsのマークで様々なページを通して作品や取組を紹介している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見開きでSDGsの各項目と関係する美術の写真が掲載されている。また、ページ下にSDGsの17の目標の番号が記入されており、意識できるようになっている。</li> </ul>
B 使用上の 便宜について	(1)生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二次元コードを用いて、学習の参考となる動画や映像資料などを活用することができるようになっている。</li> <li>・「美術史の扉」には、美術史年表が示され、分野ごとの日本と中国、アジアや西洋の関連性が説明されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞中心の題材では作品を紙面に大きく掲載し、細部までじっくり鑑賞できるようにしている。</li> <li>・素材・技法について分冊で示しており、生徒が作品制作等を進める上で必要な際に参照できるようになっている。</li> </ul>
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校外の文化財の活用を促す題材が設定されており、多摩市の文化財を活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン分野において、防災や地域の魅力を表すデザインなどが扱われており、多摩市の状況や取り組んでいることを調べ、多摩市の実態を知るきっかけになる。</li> </ul>

教科名		美術	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点	発行者名	日本文教出版	
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の図画工作科との接続を円滑にするために、オリエンテーションのページを設け、何をどのように学ぶのか、図版と文章で示している。</li> <li>・巻末の「学びを支える資料」では、技法や色彩の基本など、資料集的な要素があり、生徒の基礎・基本の定着につながるよう工夫されている。</li> </ul>	
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現題材の全てに「表現のヒント」が設置されており、発想・構想を促すように工夫されている。</li> <li>・題材は見開きの構成を基本としており、「題材名」、「鑑賞の入り口」、「学びの目標」を定位置に配置し、題材内容の把握と授業のポイントや進め方をイメージをしやすくしている。</li> </ul>	
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に創作活動に取り組むことができるよう、伝統文化を学び、現代との共通点や違いを考え、自分ならではの表現に取り組むことができる題材を設置している。</li> <li>・社会の中で生かされている「美術の力」を考えさせるページが配置されている。</li> </ul>	
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害や戦争など、社会の持続可能な発展に関わる題材を取り上げている。</li> <li>・ページ下にSDGsの17の目標の番号が記入されており、意識できるようになっている。</li> </ul>	
B 使用上の 便宜について	(1)生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛飾北斎「神奈川沖浪裏」は原寸大で掲載するなど、作品の醍醐味を感じることができる。</li> <li>・全ての題材に「学びのはじめに」の二次元コードが設置され、ICT機器を活用しながら理解を深めることができる。</li> </ul>	
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材「住み続けられる町づくり」において、地域との関わりを考え、多摩市の未来について考えるきっかけになる。</li> </ul>	